

河川堤防の築堤材料として利用

工事名：新庄次年子村山線堀内橋橋梁下部（A2）工事

発注者：山形県最上総合支庁河川計画課

納期：令和5年3月

納入数量：V=3,998.5m³

工事概要：舟形堀内の最上川に架かる堀内橋の新設工事であり、橋台の埋戻し及び河川堤防の築堤材として「改良土」が再利用されました。利用用途の適当から最大礫径を100mm以下に分級し、3種類の「発生土」をブレンドして粒度分布を改善。固化材による安定処理を施す事で施工機械のトラフィカビリティと、透水係数($k=1 \times 10^{-5}$ cm/sec)を確保しました。

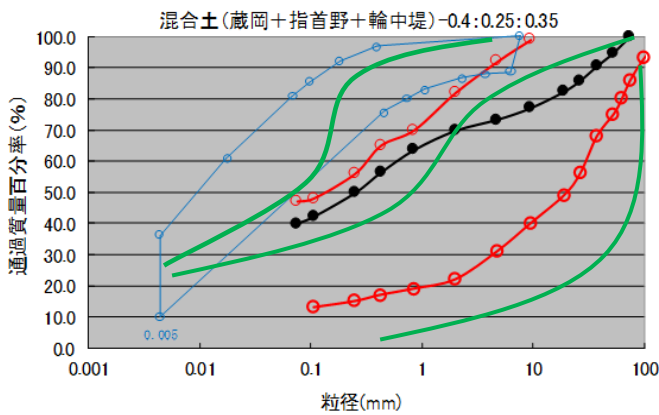
トロンメルバケットによる分級(φ<100mm)



発生土(3種類)のブレンド状況



黒線は発生土3種ブレンド後の粒度分布
(緑線はブレンド前の個々の粒度分布)



固化材による改質状況(安定処理)



改良土運搬・現場搬入状況



築堤盛土 施工状況

